

世界に目を向けよう ～サモアの文化に触れて～

学 校 名：和歌山市立四箇郷小学校	指導時数：12 時間
名 前：横矢 晴美	対象学年：小学4年生、5年生(2時間)
実践教科：総合的な学習の時間	対象人数：38 人、70 人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

ファレの中でアバの儀式に参加している時、あんなに遠いと思っていた太平洋の島国に今自分がいることに不思議な感じがした。そしてそんな貴重な機会を与えていただいたことに感謝した。研修中は毎日が驚くことばかりだったが、“郷に入っては郷に従え”の気持ちで未知の文化に触れようと思った。ポリネシア独特の生活様式や伝統を今でも大切に守り、生活しているサモアの人々に接して得た感動を、そのまま子どもたちにも伝えたいと思った。

一方で、サモアが抱える複雑な問題もたくさん知った。島嶼国ゆえの経済規模の小ささは、水道や電力のインフラ・就労問題・教育設備の不足など、様々なところに影響していると感じた。教育の質も課題とは聞いたが、実際に校長先生方のお話を聞き、特別支援学校の充実したサポートなどを見るうち、イメージしていたのとは随分違うように感じた。教科書がないため教室の壁一面に貼られた先生方の手作りの教材や、子どもたちの勉強の足跡、学力差を埋めるための工夫や努力は、教師として気付かされる部分もたくさんあった。また、日本にいる時はなかなかイメージできなかったが青年海外協力隊の方々の活動を実際に見て、援助のあり方が見えてきたように思う。研修を通して、世界に対する自分の見方が変わってきたのを感じた。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

1994 年、和歌山県で「世界リゾート博」が開催された。多くのパビリオンが並ぶ中で一際目を引いたのが「南太平洋ビレッジ（西サモア）」である。青いラグーン、白砂のビーチ、ヤシの葉の屋根と丸い柱だけで壁のない建物。南太平洋独特の風景が見事に再現され、40 人のサモア人と 10 数名の日本人スタッフが共に 72 日間を過ごしたようだ。当時小学生だった私も、美しい砂浜とヤシの木の風景は鮮明に覚えていて、ここでココナッツジュースなど飲んだ記憶がある。しかし、それが今回訪れたサモアという国だったとは研修を終えてから初めて知った。当時の資料を見ると、サモアの伝統と友好の心意気は昔も今も変わっていないことを改めて感じ、こうした繋がりも子どもたちがサモアを身近に感じる一つのきっかけになればと思った。

夏休み前、私がサモアに行くことを子どもたちに話したら皆とても興奮して「いいなぁ！先生外国に行くの」「サモアってどこ？どんな国？」と次々質問してきた。登校日に行けない代わりにサモアの写真を何枚か貼って「こんな国に行ってくるよ」と黒板に残しておいた。次の登校日、教室に上がると会うなり「先生、サモアってすごく海きれいやなー」「バスすごく派手やった」など感想を話していて、初めて知る国に子どもたちは思った以上に興味を抱いていることに気付いた。このイメージを大切に子どもたちに世界には様々な国があることを知り、文化の違いに触れる楽しさを感じさせたいと思った。子どもたちがこれから成長していく中で、今よりもっと世界の国々に目を向け、国や文化の違いを越えて誰とでも関わっていく力をつけて欲しいと思った。

また、4 年生では 1 学期に社会科でごみの学習をしている。家でのごみの出し方を調べた後、和歌山市のクリーンセンターを見学し、ごみのゆくえについて学んだ。それと関連してサモアのごみ事情を考えることで、美しいサモアの国でもごみの問題は存在することや、国や地理的条件によって処理方法は一つではないこと、様々な国の援助につづいても触れ、視野を広げさせたい。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 サモアと出会う	● サモアの位置を知る。 ● サモアの住居や食事・衣服などの写真から、サモアのイメージを持つ。	● グーグルアース ● 写真
2 時限目 南太平洋の伝統文化 ～アバの儀式～	● アバの儀式で使われる道具やサモアの物に触れて「何に使うものか」を考える。 ● アバの儀式について考える。	● 写真 ● パワーポイント ● サモアンダンスの映像 ● アバの儀式で使われる道具 ● アバの儀式の映像
3 時限目 南太平洋の食文化 ～ウム料理～	● ウム料理の作り方を知る。 ● 南太平洋の食文化について考える。	● 写真 ● パワーポイント
4 時限目 サモアの学校に行こう	● 首都アピアの様子を知る。 ● サモアの学校の写真から、自分たちの学校と比べながら考える。 ● 青年海外協力隊の活動について知る。	● 写真 ● パワーポイント ● モアタア小学校の映像
5 時限目 サモアのごみ問題	● 学校のごみ拾いの写真からサモアのごみのゆくえを想像する。 ● タファイガタごみ処理場について知る。 ● 輸入品が増えていることを知る。 ● 「ごみ分解年数ゲーム」をする。	● 写真 ● パワーポイント ● ごみの種類を表したカード
6 時限目 サモアのごみ処理方法	● サモアの生活スタイルの変化を知る。 ● タファイガタごみ処理場のしくみを知る。 ● サモアのレジ袋からごみを減らす工夫を知り、今後について考える。	● 写真 ● パワーポイント ● サモアのレジ袋
7 時限目 サモアクイズをしよう	● サモアに関するクイズをする。 ● 「みんなで分け合う」という考え方について考える。	● 写真 ● パワーポイント ● テレビ番組の映像
8～12 時限目 壁新聞で知らせよう	● サモアについてもっと知りたいことを出し合い、調べる課題を持つ。 ● 壁新聞にまとめて、他学年に発信する。	● 本 ● インターネット ● 写真 ● 模造紙

3. 授業の詳細

1 時限目：サモアと出会う

ねらい…サモアの生活を知り、今まで知らなかった文化に触れ、これからの学習に興味を持つ。

◆内容◆

- ① サモアの位置を確認する。



グーグルアースを使って、小学校からサモアまでひとつ飛び！

- ②「何の写真か・何をしているところか」を話し合う。
・ファレ・ラバラバ・お風呂・ウム料理・食事の順番 など
- ③サモアの生活と日本の生活を比べながら話し合う。



村のプール

児童の感想

- ▶ 窓やドア、壁がない家なんて初めて見た。ずっと夏だから窓がいらないんだな。
- ▶ 日本なら「子どもから食べなよ」と言うのにサモアはちがうんだな。ぼくだったら待ってられない。
- ▶ 海で洗濯するなんて日本の昔のよう。私も入ってみたい。
- ▶ 食べ物は他にどんなものがあるのだろう。買い物はどうするのかな。
- ▶ 電気が無い所もいっぱいあるのかな。

◆所感◆

初めて見るサモアの風景や生活様式に、大変驚き興味を持ったようだった。フォトランゲージでは「写真から読み取る」という経験が少なく、あまり深い読み取りにならなかったが、中にはウム料理を作る写真の中にタトゥーを見つける子もいた。感想文にはもっと知りたいことが沢山書かれていて「次のサモアの授業いつかな」と楽しみにしていた。

2時限目：南太平洋の伝統文化 ～アバの儀式～

ねらい…アバの儀式の意味を知り、南太平洋の伝統文化について考える。

◆内容◆

- ①サモアンダンスの映像を見る。
- ②「何に使うものか・何でできているか」を話し合う。



モノランゲージに用いたのは、アバの儀式で使われる木製食器・カバを飲むコップ・ラバラバ・木の皮に描いた絵画・木製の楽器・うちわなど。本物に触れることで、サモアがぐんと身近に！

- ③アバの儀式の写真や映像を見て、その意味を知る。



アバの儀式



最初は「筆」だと思った

児童の感想

- ▶ サモアのお金には、何か分からない物が描かれていて何かなぁと思っていた。今日見せてもらって最初「あれ？」って思っていたので、儀式に使う道具だと聞いてびっくりした。
- ▶ 今日には色々な道具を見た。木や葉っぱなど日本と比べて手作りで出来ているものが多い。
- ▶ お客さんを歓迎してくれてサモアの人とはとても優しいのかな。私も行って歓迎してもらいたい。
- ▶ サモアンダンスはすごく激しかった。特別な日に踊るのかな。付けるかざりがきれい。

◆所感◆

サモアンダンスの映像をととても気に入り、男の子たちは一緒に踊っていた。以前に見せた「1 タラ硬貨」に描かれていた絵を子どもたちは覚えていて、それらの道具を実際に見て触れることでより理解が深まったようだった。

3時限目：南太平洋の食文化 ～ウム料理～

ねらい…ウム料理の作り方を知り、南太平洋の食文化について考える。

◆内容◆

- ① ウム料理の写真から、調理方法を知る。
- ② サモアの他の食事を知る。
- ③ 無駄の出ない食文化から、感じたことを話し合う。



児童の感想

- ▶ サモアは食べ物を大切にしている残さないと分かった。
- ▶ ココナッツがよく使われていた。▶ 見たこともないご飯ばかりだったけどおいしそう。
- ▶ 葉っぱをお皿にしているエコだなと思ったし、とてもおしゃれに出来ていてすごい。
- ▶ 豚がとてもかわいそうだったけど、私たちも普段豚を殺して食べているからふつうなのかな。
- ▶ あの豚を見て、豚肉をきらいという人は、これからは残さず食べてもらいたいと思った。

4時限目：サモアの学校に行こう

ねらい…サモアの小学校の様子から、自分たちと似ている所や違う所を考える。

◆内容◆

- ① 村の学校の写真を見て、サモアの学校の様子を知る。
- ② 首都アピアの様子を知る。
- ③ モアタア小学校の映像・写真を見る。
- ④ 自分たちと似ている所や違うところを考える。
- ⑤ 青年海外協力隊の活動について知る。



児童の感想

- ▶ サモアではみんな制服を着ていた。
- ▶ 朝の会で校庭に出て歌を歌ったりしていた。見た目は日本の学校と同じだな。
- ▶ 机がなくて床で勉強しているのを見て日本では考えられないと思った。教科書も無いのがびっくり。イスとか机がなかったらノートは書きにくいだろうな。
- ▶ サモアの学校に日本の先生がいるとは思わなかった。

5時限目：サモアのごみ問題

ねらい…外国からの物資流入が増えていることや、ごみの分解には長い年月がかかることについて考える。

◆内容◆

- ① ごみ拾いをする生徒の写真から、サモアではごみをどのように処理するのか想像する。
- ② ごみ置き場、タファイガタごみ処理場の写真から処理方法を知る。
- ③ スーパーの写真から輸入品が増えていることを知る。
- ④ 「ごみ分解年数ゲーム」をする。

👉👉がポイント!

ごみの種類を表す写真カードを“分解が早い”と思う順に並べる。
サモアでの実践時はカードが多くて混乱。数を減らしました。

児童の感想

- ▶ サモアにあんなにごみがあったなんて。一杯になったらどうするのかな。
- ▶ 日本の福岡で考えた方法がサモアで使われているなんて初めて知った。
- ▶ ごみが分解されるにはあんなに時間がかかるとは思わなかったな。
- ▶ 日本ではごみを処理する所がいっぱいあるけど、サモアは小さな島だからごみを集める場所是一つなのかな。



6時限目：サモアのごみ処理方法

ねらい…島国のサモアが美しい自然を残していくためにはどうすればよいか、自分の考えを持つ。

◆内容◆

- ① 村と都市部の生活を比較し、生活スタイルの変化を知る。
- ② タファイガタごみ処理場のしくみを知る。
- ③ レジ袋から、ごみを減らす工夫について考える。

👉👉がポイント!

サモアのレジ袋に興味津々。英語表記も手がかりになります。

児童の感想

- ▶ ごみであふれていくとサモアがごみだらけになるから、とても心配です。
- ▶ サモアのレジ袋はやわらかかった。とうもろこしの成分だと早く無くなるからすごいな。
- ▶ サモアでも、がんばってごみを減らす方法を考えているんだなと思った。
- ▶ ほかにごみ処分場を作ったらいいと思う。
- ▶ スーパーの商品はプラスチックのものばかりだった。輸入をもう少し少なくしたらどうかな。



自給自足の生活



何て書いてあるのかな?

◆所感◆

サモアと和歌山県では、サモアの方が面積はずっと小さいことに驚いていた。小さな島国に日本のような巨大な焼却場は不向きなことや、福岡方式の導入でかなり環境が改善されていることなども理解できたように思う。

7時限目：サモアクイズをしよう

ねらい…今まで学習したこと他に新たにサモアについて知り、「分け合う」という文化について考える。

◆内容◆

① サモアに関するクイズをする。(全9問)

ex. サモアからロンドンオリンピックに出場した選手がいる？
バスで満席になったらどこに座る？

 がポイント！

テレビ番組の映像を一部見せてクイズ番組風に。「誰かが困っていたら自分のモノを渡すのは当たり前。そうすればみんなが幸せになれる。」という言葉には心動かされる。

児童の感想

- ▶ サモアにも津波が来て、たくさんの人や国に助けてもらったことを知った。東日本大震災の時にはサモアンダンスを踊って元気してくれたのを知って、うれしかった。
- ▶ 一番心に残っているのは、サモアは信頼関係が強い国なんだなということ。
- ▶ 日本も他人に親切にできる国になってほしい。
- ▶ サモア以外にもびっくりする普通のことが世界にはいっぱいありそうなので、もっと知ってみたい。

8～12 時限目：壁新聞で知らせよう

ねらい…サモアについてもっと知りたいと思う課題を見つけ、調べる。
他の学年にも発信する。

◆内容◆

- ① 調べたいテーマを出し合い、グループを作る。
- ② それぞれ、インターネットや本を使って調べ、壁新聞にまとめる。

◆所感◆

「サモアについてどんなことをもっと知りたい？」と聞いたところ、子どもたちからは「食べ物」「学校」「スポーツ」「音楽」「病院」「お金」「生き物」「伝説」といったテーマが出た。学校のカリキュラムに興味を持ったり、サモアで病気になったり手術をする時にどうするのか、など疑問に思ったようである。1年生にも読みやすいよう仮名を振る・クイズにする・サモアのマスコットキャラクターを作る、など思い思いに工夫していた。完成すれば校内に掲示して他学年にも見てもらう予定である。

4. 成果と課題

9月からの取り組みを振り返って、率直に「サモアの授業をしてよかったな」と思った。たった10日間ではあるが、この教師海外研修ではサモアの文化に触れ、そこで活躍する日本の方々と接し、多くの刺激を受けた。自分が感じた沢山のことを子どもたちにどう伝えるか、初めは色々と悩んだが、授業をするうちに少しずつ掴めるようになった。子どもたちもまた、初めて知る国に最初は戸惑っていた。毎時間書かせた感想は、初めのうちは「知ったこと」や「驚いたこと」が中心でそれに対して自分の考えを持てる子は少なかった。それが、ごみ問題を考える辺りから自分なりに「こうしたらいいんじゃないかな？」と考えられるようになり、少しずつではあったがサモアに慣れ親しみ一人ひとりの考えが深まってくのを感じた。

自分の体験をこのようにして“伝える場所”があることも、教師という仕事ならではの有難いことだと感じた。今回、子どもたちにとってサモアという一つの国について一緒に勉強したことを、これから成長する中でふと思い出したり、何か一つのきっかけになってくれればと願う。

参考資料 「世界リゾート博公式記録：21世紀のリゾート体験」 世界リゾート博協会
NHK BS『地球アゴラ「驚き！世界のシェアライフ」』